

令和3年6月定例会一般質問発言通告表

発言 順序	議席 番号	氏名	渡 辺 佳 正 議員	1 / 1
発言項目		要 旨		答弁者
1	在宅医療・介護連携の現状と今後の推進計画について	<p>(1) 富士宮市の在宅医療の現状について。</p> <p>① 訪問診療を実施している医療機関及び医師の数。</p> <p>② 訪問看護を実施している医療機関及び看護師の数。</p> <p>③ 在宅看取りを実施している医療機関の数、及び過去3年間の在宅看取り件数の推移。</p> <p>(2) 在宅看取りについて。</p> <p>① 市民アンケートでは、最後まで自宅で過ごしたいと願う市民が約8割いるが、現実には市民が最期の死を迎える場所（病院、施設、自宅）の割合はどうなっているのか。</p> <p>② 国は在宅看取りの割合をどこまで増やそうとしているのか。</p> <p>(3) 在宅医療を推進するため、市立病院は以下の項目について充実強化計画を持っているのか。</p> <p>① 人材拡充（医師、看護師、医療ソーシャルワーカーなど）。</p> <p>② デジタル技術活用（タブレットなどによる患者情報の共有）。</p> <p>③ 市立病院と地域の診療所や介護施設などとの連携。</p> <p>(4) 在宅医療・在宅看取りに不可欠な緩和ケアについて。</p> <p>① 末期がん患者など痛みのコントロールを必要とする患者に対して、市立病院ではどのような緩和ケアを実施しているか。</p> <p>② 市立病院で実施している緩和ケアは、在宅医療でどこまで可能なのか。</p> <p>(5) 在宅医療では、医師・看護師・介護士の他に、ケアマネジャー、作業療法士、理学療法士、言語聴覚士、社会福祉士など多職種間の連携が不可欠と言われているが、当市の多職種間連携会議では在宅医療の推進についてどこまで議論されているのか。</p>		市長 病院長 関係部長
2	一般廃棄物処理基本計画における収集運搬事業者委託契約の在り方及びプラスチックごみ・生ごみ分別収集の取扱いについて	<p>(1) 一般廃棄物処理基本計画では、自然災害時などにおける一般廃棄物運搬事業の継続性（BCP）についてどのように規定するのか。</p> <p>(2) 一般廃棄物収集運搬事業で災害時のリスク分散を考えると、富士市のように組合形式で複数の事業者による対応の方が優れていると考える。その意味でも、一者との随意契約見直しも検討すべきと考えるが、いかがか。</p> <p>(3) プラスチックごみと生ごみの分別収集対応能力は、収集運搬事業者選定基準の重要な要素と考えるが、いかがか。</p> <p>(4) 10年間の処理基本計画の中で、プラスチックごみと生ごみの分別収集・リサイクル推進について、収集運搬事業者、リサイクル事業者、たい肥製造事業者などと連携して検討していくべきと考えるが、いかがか。</p>		市長 関係部長